

「座位、立ち上がりの評価とハンドリング実技」

六地蔵総合病院リハビリテーションセンター 大沼俊博・藤本将志・渡邊裕文

臨床にて神経疾患や運動器疾患患者さんに対して、急性期から回復期、さらには必要に応じて維持期においても座位姿勢を評価する機会は多岐にわたります。

さらに立ち上がり動作において安定性や安全性に低下を認める場合には、立ち上がり練習を実施します。

脳血管障害片麻痺患者さんにおいて座位姿勢保持や立ち上がり動作に不安定性を認めることで日常生活動作に支障をきたしている場合、どの筋に問題があるのか、麻痺側の殿部周囲の表在感覚障害や下肢の関節の深部感覚障害も伴っているからか、下肢に関節可動域制限がある？などと姿勢、動作観察に基づいて主要な機能障害を考えていきます。

セラピストはその機能障害を考慮して座位姿勢保持や立ち上がり動作練習を実施していきますが、この際セラピストは自分の実施していることを人に説明できたり、文章化することができるでしょうか。

私たちが実践している患者さんへのハンドリングは、運動を遂行して頂くためにすべて意味のあるものでなければなりません。

そしてハンドリングは運動学、解剖学で説明できるものであり、セラピストだからこそ実践できる技であると考えます。

今回のナイトセミナーでは、

1)健常者同士にて、座位姿勢を評価するなかで、身体の非対称性の有無とそれにまつわる問題点を解剖学、運動学的に抽出する練習を行います。

2)座位姿勢と立ち上がり動作の関係性を分析した上で、解剖学、運動学的観点から座位、立ち上がりのハンドリングを実践していきます。

健常者同士での評価と実技を行いますので、問題点はおそらく一点、もしくは二点となることが想定され、少ない手数でのハンドリング技術を習得して頂きます。

当日はどうぞ宜しくお願い致します。